



第六十五回福島県高等学校PTA連合会福島大会

飛翔け

この大地から未来へ

～福島未来を創る子ども達よ～

第六十五回福島県高等学校PTA連合会福島大会は、平成二十七年六月四日（木）五日（金）の二日間、穴原温泉「吉川屋」を会場として開催されました。大会テーマ「飛翔けこの大地から未来へ」福島未来を創る子ども達よ～のもと、御来賓十一名の御臨席を賜り、県全域からの参加者は三百七十名を超えて熱気あふれる大会となりました。講演に分科会と、県内各地で抱えるさまざまな課題に対し、活気に満ちた討議が行われ、県北地区実行委員や参加者の皆様のご協力により、盛会のもと全日程を終了することができました。会員の皆様をはじめ関係諸機関の御理解・御支援・御協力に対し深甚なる謝意を表したいと思います。

次にアトラクションとして、桶高生士の素晴らしい合唱が披露され、熱演に盛大な拍手が送られました。

第二日目

分科会

五つの分科会で各校のテーマ発表が行われ、協議においては参加者の熱気がみなぎって、盛んな意見交換が行われました。各校に協議内容が持ち帰られ、さらに有意義な活動が展開されることを願います。

分科会一覧

第一分科会 総務委員会

「田島高校PTA『総務委員会』活動状況報告」

田島高等学校

PTA副会長 室井 和美

「福島明成高等学校のPTA活動について」

福島明成高等学校

PTA副会長 二階堂美由紀

第二分科会

「南会津高等学校（就職）第二分科会」

南会津高等学校

PTA会長 渡部 克哉

講演では、講師に福島ユナイテッドFC代表の鈴木勇人氏をお迎えし、「情熱が成功へ導く」福島ユナイテッドFCの挑戦」の演題で、熱いお話をし

「福島明成高等学校のPTA活動について」

福島明成高等学校

PTA副会長 二階堂美由紀

第二分科会

「南会津高等学校（就職）第二分科会」

南会津高等学校

PTA会長 渡部 克哉

新会長に田中清美氏（橘）



会長 田中 清美

◎開会式・表彰式・講演・教育懇談会  
開会式は、県高P連近藤副会長長の開会のことばではじまり、田中清美県高P連会長、高橋祐樹大会実行委員長があいさつを述べました。

表彰式では、表彰状が今野貴文富岡養護学校PTA会長に、感謝状が湯浅大郎前県高P連会長以下三十名の方々の多年にわたるPTA活動に対して贈呈され、引き続き県高P連広報紙コンクールで、安達高校PTA・田村高校PTA・富岡高校PTAが表彰されました。

平成二十七年総会では六月四日、福島市の穴原温泉吉川屋で県大会に先立ち開催されました。構成員二十九名中一〇三名の出席（三十二名の委任状含む）を得て各議案が審議されました。予算案の中で、総合補償制度の手数料を県高P連が負担することと、また来年度は加入

総会で選出

二十七年役員等

会長 田中 清美（橘）  
副会長 高橋 祐樹（福島北）  
近藤 通（白河）  
吉田 博之（葵）  
染谷 昌彦（湯本）  
和田 浩一（相馬農業）  
青山 修身（橘）  
監事 高橋 正明（川俣）  
原 秀明（喜多方東）  
顧問 湯浅 大郎（前会長）

発行所 福島県立高等学校PTA連合会  
編集者 福島県立高等学校PTA連合会調査広報委員会委員長 高橋祐樹

全国高P連顕彰受賞者

- 個人表彰 湯浅 大郎 県連合会会長・東北高P連理事
- 団体表彰 郡山東高等学校PTA PTA活動の活性化（第64回郡山大会）

東北地区高P連顕彰受賞者

- 表彰状 佐藤 孝二 喜多方桐桜高等学校 副会長 会津地区会長  
長嶋 修一 平商業高等学校 副会長 いわき地区会長
- 感謝状 湯浅 大郎 安積高等学校 会長 理事（健全育成委員長）  
大河 政昭 福島南高等学校 副会長 代議員（進路対策副委員長）  
四柳 昭夫 郡山東高等学校 副会長 代議員（調査広報委員長）  
八巻 則夫 新地高等学校 副会長 代議員（健全育成副委員長）

福島県高P連顕彰受賞者

- 表彰状 今野 貴文 富岡養護学校 会長 富岡養護学校  
震災直後から4年間単P会長として、仮設校舎への移転とその後の困難な時期に学校を支えた。また、相双地区会の特別支援校PTAを代表する形で、県内・県外における諸活動において積極的に活躍した。
- 感謝状 湯浅 大郎 安積高等学校 会長 安積高等学校  
久保田 範夫 〃 〃 〃  
森 和正 〃 〃 〃  
星 河部 〃 〃 〃  
大阿部 小三 〃 〃 〃  
高村 健一 〃 〃 〃  
山越 紀男 〃 〃 〃  
四柳 政昭 〃 〃 〃  
斎藤 良陽 〃 〃 〃  
菊地 邊陽 〃 〃 〃  
渡辺 佐津 〃 〃 〃  
春日 文夫 〃 〃 〃  
古川 哲一 〃 〃 〃  
嶋 修泰 〃 〃 〃  
松田 一郎 〃 〃 〃  
古田 弘一 〃 〃 〃  
村土 勝夫 〃 〃 〃  
田 勝一 〃 〃 〃  
土屋 則夫 〃 〃 〃  
八吉 佳子 〃 〃 〃  
田 眞一 〃 〃 〃  
和 浩賢 〃 〃 〃

相双地区の被災会員校へ義援金を贈呈

全国高P連から 二百三十万円

全国高P連では、東日本大震災に対して、全国的に義援金の募集活動を行い、本県でもその第六次配分として、昨年は四百万円の浄財を相双地区会員校と相双地区会に贈呈しました。今年度も義援金の募集活動は行われており、その第七次配分として全国高P連から二百三十万円の浄財が恵贈されました。この義援金については、相双地区の会員校に対し、それぞれの移転状況等により百八十七万円、高P連相双地区会自体の活動支援のために四十三万円を九月三日に贈呈しました。

東日本大震災等で県教育長に要望

県高P連は九月一日、田中会長はじめ副会長である各地区会長等が参加して、「東日本大震災並びに原発事故に関わる高校教育の早期正常化対策」について、県教育長に対する要請行動を行いました。当日は杉教育長に直接陳情書を提出、田中会長が趣旨を説明

して善処方を要請しました。教育長は各副会長の話も熱心に聞かれた上で、「全力を挙げて対処したい」というお言葉を頂きました。

〔要望事項〕

- 一 地震により破損・損壊した施設・設備の早期復旧
- 二 放射線に関わる諸調査及び除染対策の継続と強化
- 三 サテライト校における教育環境の整備
- 四 協力校・大学との緊密な連携と施設設備の有効活用促進
- 五 教育用具等、備品不足の解消
- 六 JR等、公共交通機関による生徒の活動実態に応じた通学手段の確保
- 七 近隣の体育館やグラウンド等、他団体等所有施設の借用措置等の推進
- 八 オサテライト校や宿泊施設における生活環境の改善
- 九 双葉郡内サテライト校の休校に向けた準備作業への支援
- 十 ふたば未来学園高の整備・充実

佐野全国高P連会長がふたば未来学園高校・富岡養護学校訪問

継続と強化並びにエアコンの設置

全国高P連の佐野元彦会長（秋田）が、木戸浩久調査広報委員長（大分・池口康夫事務局長と十二月十五日（火）にふたば未来学園高校を訪れ、同校の開校を祝いました。丹野純一校長から、義援金へのお礼と共に現在の状況等のお話を伺い、校内の案内をして頂きました。佐野会長は、改めて生徒たちの素晴らしい成長と活躍に驚きながらも、一層の発展を心から祈って応援したいとお話をされました。

全国高P連大会・東北高P連大会報告

平成二十七年 全国大会について

第六十五回全国高等学校PTA連合会大会が、八月十九日から二十一日までの三日間、岩手県盛岡市、滝沢市の二市七会場で開催されました。「未来圏からの風をつかめ」を大会テーマの下、全国各地から一万人が終結、各会場では、岩手県PTAの方々による心のこもった温

かい運営が行われました。残暑が残る中での開会式には、下村博文文科相があいさつに駆けつけ、真摯な議論の中からPTA活動の発展が成るようになど激励を受けました。その後、芝浦工業大学長・村上雅人氏による「夢高くして足地にあり」と題した基調講演があり、超電導リニアの紹介ビデオなど、ユーモアに富み分かりやすく話され、若い時から夢を持ち、広く海外にも友情を育み



ながら、知の探究に励むことの  
素晴らしさを訴えられました。  
また、記念講演として映画監  
督・大友啓史氏による「アドリ  
ブを生きる力」と題し、「竜馬  
伝」などについて、アクシデン  
トすら楽しみ、力に変え、作品  
を作り上げていく喜びが紹介さ  
れ、感動をよびました。

研究発表では、京都大学大  
学院・木原雅子准教授による「青  
少年の健全育成」の調査結果報  
告がなされ、特に SNS 利用  
者は 96%（二〇一三年調査よ  
り 10% 増加）で、ほぼ全員が利  
用、使い方では、学生の約 80%  
はルールがなく、対策が必要と  
解説されました。また、分科会  
では、全国各地からの取組み事  
例発表を通して、参加者の活発  
な意見交換により、各地域での  
活動の充実・拡大に期待が持た  
れる内容となりました。

閉会式では、第六十六回大会  
の開催地である千葉県高 P 連を  
代表し、大木幸夫会長が登壇し、  
来年の会場である幕張メッセの  
偉容をはじめ、千葉県の案内ビ  
デオで次回大会を熱くアピール  
し、盛会裡に第六十五回大会を  
締めくくりました。

「PTA 会長 辻 儀昭  
（郡山商業高等学校）」  
を大会テーマに第六十四回東北  
地区高等学校 PTA 連合会青森  
大会が青森市のリンクステー  
ションにて七月二日から三日間  
にかけて開催されました。

二日目の研究協議大会におい  
ては、東北六県の代表校から様々  
な実践報告がなされ、活発な質  
疑応答となりました。そのなか  
で、今回郡商が福島県代表とし  
て、「ふるさとを PR」と言う題  
目で PTA 活動の取り組みを発  
表してきました。（詳しくは、郡  
商 HP をご覧ください）他の五  
校につきましても、東日本大震  
災からの復興に取り組みながら  
地域社会の中で必要とされる人  
材になる事を目指し、エネルギー  
シユに活動されている内容の報  
告がなされました。

今後、社会へと果立って行く  
子供たちに「ふるさと」を愛す  
る心を育くむ重要性を改めて感  
じさせられた素晴らしい大会で  
した。

## 平成二十七年年度東北大会・研究協議について

## 進路対策委員会

委員長 和田 浩一  
（相馬農業高等学校）

進路対策委員会の東北高 P 連  
の活動は、六月に青森市で第一  
回委員会、八月に仙台市で N P  
O 法人の代表の方による研修を  
含めた第二回委員会を宮城県進  
路対策委員会の方々と共に開催  
しました。十二月には、仙台市  
で第三回委員会を開催し、震災  
から地元住民の方々と共に工場  
再開をはたしたキリンビール仙  
台工場の活動を紹介いただき意  
見交換をしました。

本県の活動は、七月に第一回  
専門委員会を開催し、本年度の  
活動に関して話し合いを行いま  
した。進学を目指す高校、就職  
を目指す高校と主たる目標が異  
なる部分があり、その活動には  
違いがありますが、子供達の将  
来の為の活動として少しでも参  
考になればと、本年は、普通高  
校、実業高校の二校の活動を紹  
介する事を含めたりフレッツ  
の作成を目指し、一月の第二回  
専門委員会にて内容の精査を行  
い、新年度に各校にて配布いた  
だけるよう準備いたします。

ており、「登校時一声、マナー  
アップ運動」を実施し、その  
集約結果を作成したり、安心  
協 I L A S テストを実施して  
おりマナーアップ運動につい  
ては、広く各単 P に定着して  
おるところであり一定の成  
果も認められています。  
尚、報告書は集計し、後日  
発送する予定であります。

近年 子供を取り巻く環境  
は複雑化を増し、今年は全国  
で痛ましい事件が発生してい  
ます。このような社会である  
からこそ、今後さらに学校  
地域 家庭が連携を密にし子  
供たちの健全育成に寄与して  
参りたいと考えております。

## 調査広報委員会

委員長 高橋 祐樹  
（福島北高等学校）

福島県の調査広報委員会  
は、平成二十七年七月三十日  
に総務委員会、合同委員会終  
了後、福島県青少年会館にて  
第一回調査広報委員会を開催  
しました。今年度の年間活動  
計画、福島県高等学校 PTA  
会報、福島県 PTA 広報紙コ

ンクルなどについて協議し年  
間計画等が決定しました。今年  
度も東北 PTA 広報紙コンク  
ールに向けて、各高等学校で広  
報紙の作成が進められています。  
県内の県北 県中、会津、いわ  
き、相双地区で地区ごとの三校の選  
考を行い、平成二十八年一月二  
十七日に合同委員会終了後、第  
二回調査広報委員会を開催しま  
した。事務局担当者、外部審査  
委員により選考審査会を行い福  
島県代表三校の広報紙を選定し  
ました。どの広報紙も創意工夫  
され PTA 事業の内容や生徒た  
ちの取組み紹介など思いが伝わ  
る記事が掲載され甲乙つけがた  
い広報紙が発行されました。こ  
のたび決定した福島県の代表三  
校は、平成二十八年一月二十九  
三十日の両日山形県山形市で開  
催されました東北 PTA 広報紙  
コンクール選考審査会に出品さ  
れました。今後とも、各単 P で  
より良い広報紙づくりをお願い  
申し上げます。最後になります  
が、各単位 PTA、県高 P 連  
県調査広報委員の皆様方には今  
年度、ご尽力をいただきました  
こと深く感謝いたします。

## 白河実業高校 PTA 活動

PTA 会長 星 一法

白河実業高校は、農業、機械、  
電気、電子、情報ビジネスと五  
つの科のある専門高校であり、  
生徒の進路も、進学、就職と幅  
広く、地域の期待に応え社会に  
貢献できるよう、日夜勉学に励  
んでいる学校です。

PTA 活動は、毎年、校内に  
ある校がきれいに咲き誇る四月  
に総会が行われ、保護者と教職  
員が一つとなり生徒たちのサ  
ポートの活動が始まります。

健全育成委員会では六月と十  
月に朝のあいさつ運動を行い、  
登校時に生徒達にひと声かける  
事で PTA の存在を感じてもら  
える様に努めております。

また、全国高 P 連や東北地区  
高 P 連とも連携した活動を行っ

## 健全育成委員会

委員長 吉田 博之  
（養高等学校）

本年度健全育成委員会の活動  
目標は PTA の諸問題のうち  
健全育成についての研究や啓発  
活動を通じて、高等学校の発展  
と充実を図ることを第一とし  
様々な活動を各単 P で行ってお  
ります。

また、全国高 P 連や東北地区  
高 P 連とも連携した活動を行っ

また、全国高 P 連や東北地区  
高 P 連とも連携した活動を行っ

## 全国大会 栄光を称えて

## 全国高等学校 家庭クラブ研究発表 大会に参加して

喜多方東高等学校

三年 渡部 結依

私は平成二十七年七月に北海  
道札幌市で行われた第六十三回  
全国高等学校家庭クラブ研究発  
表大会ホームプロジェクトの部  
に、東北ブロックの代表として  
家庭クラブ員六名と共に参加し  
ました。弟の自立を笑顔でサポ  
ートし家族で育ちを見守りなが  
らうと題して、障がいを持った  
弟のために自立サポートグッズ  
を研究しました。そして、これ  
まで一緒に活動してきた家庭ク  
ラブ員の仲間やご指導して下さ  
った顧問の先生、専門的なアド  
バイスをいただいた会津養護学  
校、猪苗代養護学校の先生方、  
家族への感謝の気持ちを込めて  
発表しました。審査結果で文部  
科学大臣賞に決まった時には、  
嬉しさと感謝の気持ちで一杯に  
なりました。今後はこの経験を  
誇りに思い、家族全員で協力し  
て弟の自立のサポートを継続し  
ていきたいと思います。

## インターハイを 終えて

福島高等学校

三年 山下 潤

最終学年となり、最後のイン  
ターハイは大きな怪我もなく、  
万全の状態を迎えることができ  
ました。これまで何度も全国大  
会の決勝で走りましたが、いつ  
もあと一步のところで優勝を逃  
してしまいました。ゆえに、この大  
会に懸ける思いは人一倍であつ  
たと思います。

苦手としていた百メートルで  
は、得意の後半の追い上げが功  
を奏し、四位に入賞することが  
できました。本命種目の二百メ  
ートルは、例年よりも非常に高  
いレベルとなり、混戦が予想さ  
れました。決勝一本に集中した  
走り、前回の順位を上回る二  
位でレースを終えました。

またしてもあと一步というこ  
所で優勝を逃してしまいました  
が、この悔しさを胸に、今後  
より大きく飛躍できるよう突き  
進んでいきたいと思います。



## 努力から得たこと

白河実業高等学校自転車部

三年 鈴木 涼介

私には夢があります。それは、  
競輪選手になるという夢です。  
入部してからは部活での練習の  
みで自主練習などはしていま  
せんでした。そして、迎えた 1 年  
生の大会ではとても残念な結果  
に終わりました。同じ学年の選  
手が大学生などという中で入賞  
しているのを見て、とても悔し  
い気持ちになりました。私は、  
その日から朝練習をしようと決  
め始めました。朝練習は、とて  
もつらく途中で何度もやめよう  
と思ったこともありましたが、

## 感謝

田村高等学校

三年 青木 智也

私は第七十回国民体育大会ウ  
ェイトリフティング競技少年男  
子 94 kg 級において夏の全国高校  
総体に続き総合優勝することが  
できました。卒業を目前にして  
今思うことは、決して私ひとり  
の力では成し遂げることができ  
なかつたということです。毎日、  
励ましてくれた両親、いつも親  
身になって御指導いただいた先  
生方、たくさん支援や応援を  
してくれた県体育協会、県ウエ  
イト協会、同窓会、そして温か  
く見守ってくれた地域の方々  
に感謝の気持ちでいっぱいです。  
高校三年間がとても充実するこ



それが結果につながることを信  
じて続けました。すると、タイ  
ムが徐々に縮まってきました。  
その時、私は続けることの意味  
と努力の大切さを感じました。  
そして、迎えた全国インターハ  
イでは、個人種目で三位・団体  
種目では四位に入賞することが  
出来、努力が結果に結び付いた  
瞬間を目と身体で感じました。  
ここまで到達できたのも今まで  
の自分の努力と両親、そして先  
生の支えがあったからです。と  
ても感謝しています。これから  
私は、これらの経験を忘れずに、  
競輪選手になるために努力を続  
け、強くなっていきたいと思  
います。

東日本大震災とそれに伴う福  
島第一原発事故により、本県を  
取り巻く状況は一変し、事故後  
九四年たった現在でも、高校生  
の学習・環境生活は、事故以前  
の状況には回復に至っていま  
せん。サテライト校における教育  
環境の整備、ふたば未来学園高  
校の整備・充実など七項目につ





とができました。今後は大学に進学し競技を続けますが、高校三年間でたくさんの人に頂いた「感謝」することを大切に頑張りたいと思います。御指導ありがとうございます。



「滋賀総文」に参加して

安積黎明高等学校

二年 尾形真由紀

私は七月三十日に行われた、滋賀総文の小倉百人一首かるた部門の読手コンクルールの部に出場させていただきました。

私は全国大会という大舞台に立つことができて嬉しい反面、緊張と不安も多くありました。また、先輩方が素晴らしい成績を残しているというプレッシャーもあり、心が折れそうになることも多々ありました。しかし、仲間の励ましもあり、本番ではリラックスして詠むことができました。このような素晴らしい舞台に来ることができたのはいつも共に練習し支えてくれた仲間をはじめ、先生方や先輩方、両親などのたくさんの方のおかげだと思っています。心から感謝しています。

私はかるたを通じて、仲間や経験、つながりなど、大切なものを得ることができました。今後も競技かるたを福島県に少しずつ広げていけたらと思います。

今年を振り返って、これからの目標

安達高等学校

三年 小久保南海

今年の競技成績は、私自身にと

とって、納得できない結果でした。厳しい練習に励み、シーズンを迎え、日本代表選手として選考され、ポルトガル世界選手権大会、インドネシアアジア選手権大会に出場し、銀メダルを勝ち取ることができました。しかし、国内大会では、一度の優勝のみ。全国高校総体、国民体育大会では、優勝できず、二位と三位。とても悔しい気持ちだけが残ってしまい、涙が止まりませんでした。今後、大学に進学し、競技を続けます。二度と同じ、悔しい気持ちにはなりたくありません。自身で、具体的な反省をもとに、課題の克服に努めます。一番近くで支えていただいている家族、指導者、カヌーを支援していただいている関係者の方々に、感謝の気持ちを忘れずに、恩返しできるように目標としているオリンピック出場を果たせるよう努力し続けていきたいと思っています。



想いを伝える

磐城桜が丘高等学校放送局

私たちは磐城桜が丘高校放送局「あめのなか」というテレビ番組作品で、全国高等学校総合文化祭滋賀大会放送部門ビデオメッセージ部門において優秀賞を頂くことができました。この番組では、いわき市内で唯一の手作り館屋である「わたなべの館本舗」を取材しました。二代目を受け継ぐ渡辺さんご夫婦の息の合った館づくりの技や、手作り館に対する温かい想いを表現しました。

私たちは活動の中で、「想いを伝える」ことを大切にしています。今回の作品においても渡辺さんご夫婦の想いが番組を見た人に感じてもらえるよう、何度と何度も構成を練り直し、映像・音などすべての要素に妥協することなく作業を進めました。このように活動できているのは、取材に快く応じてくださった方々をはじめ地域の方や支えてくれた両親、先生方の協力があるからです。今後も多くの方に想いが届けられるよう、一層力を入れて活動していきます。

を伝える」ことを大切にしています。今回の作品においても渡辺さんご夫婦の想いが番組を見た人に感じてもらえるよう、何度と何度も構成を練り直し、映像・音などすべての要素に妥協することなく作業を進めました。このように活動できているのは、取材に快く応じてくださった方々をはじめ地域の方や支えてくれた両親、先生方の協力があるからです。今後も多くの方に想いが届けられるよう、一層力を入れて活動していきます。



「びわこ総文」に参加して

いわき総合高等学校演劇部

顧問 齋藤夏菜子

滋賀県彦根市で開催されたびわこ総文演劇部門に東北ブロック代表として出場してまいりました。『ちいさなセカイ』を上演し、優良賞をいただくことができました。

生徒達はこの作品を通して「私達の今」を等身大で表現しました。自己を見つめ、葛藤し、作品と共に成長していく過程は、特に震災後の今、多様な背景や価値観を持つ人々で溢れているこのいわきで暮らす彼らにとって意味のある作業だったと思います。

いわきから遠く離れた土地で、私達の日常を表現し伝えるの不安もありましたが、上演終了後は様々な方に声を掛けていただきました。このような経験ができたことを感謝しています。

受け継がれる思い

湯本高等学校 放送局

私たち湯本高校放送局は「受け継がれるもの」という作品で、第三十九回全国高等学校総合文化祭滋賀大会オーディオビジュアル部門で優秀賞を受賞することができました。この作品は、いわき市在住の絵のほり職人である三代目辰昇さんが、先代からの思いを受け継いでいく姿をまとめたものです。オーディオビジュアル部門は、五分間の音声と二十五枚以内の写真で構成されます。私たちは、辰昇さんが作業する時の筆の音を作品に入れたり、絵のほりの繊細さを写真に収めたりする工夫をしました。

総文祭全国大会での優秀賞受賞は、昨年の先輩方の作品に続き二年連続となります。先輩方の記録を引き継ぐことができ、とても嬉しく思います。最後になりましたが、今回私たちの作品制作にご協力いただいた方々に感謝いたします。本当にありがとうございます。

総文祭全国大会での優秀賞受賞は、昨年の先輩方の作品に続き二年連続となります。先輩方の記録を引き継ぐことができ、とても嬉しく思います。最後になりましたが、今回私たちの作品制作にご協力いただいた方々に感謝いたします。本当にありがとうございます。



支え

富岡高等学校

三年 渡辺勇大

八月に行われたインターハイでシングルス、ダブルスで優勝、十月に行われた国体少年男子で優勝することができました。

インターハイでは、多くの試合数をこなしていかなければならなかったのでもっと疲れなかったのは仲間、一番の助けになったのは仲間の支えでした。試合前から試合後の何から何までサポートしてくれました。仲間の大切さを改めて深く実感した大会でした。

団体では責任感を強く持つコートに立ちました。なぜなら「福島」という大きな看板を背負っていたからです。優勝した時はとても嬉しかったです。それ以上に思い出に残っていることは応援です。福島を応援してくれる全ての方々が大きな声援を送って下さったからです。会場で福島への応援になっていたことを今でも鮮明に覚えています。

私一人では成し得ることができなかったことも、支えてくださった全ての方々のおかげでこのような結果を残すことができました。感謝してもしきれないですが、私のこれからの活動を恩返しという形で少しでも福島を元気にできるように頑張りたいと思います。ありがとうございます。



栄光の記録 高文連全国大会 等

平成27年度高文連専門部全国大会等 (個人)

- 第 69 回全国高等学校弁論大会  
第4回安達峰一郎記念世界平和弁論大会  
加藤 さわ 会津高等学校  
内閣総理大臣賞・文部科学大臣賞
- 第59回文部科学大臣杯全国青年弁論大会  
武田 夏歩 会津高等学校  
優秀賞 名古屋市議会議長賞
- 第 9 回全農学生「酪農の夢」コンクール  
高山 直哉 相馬農業高等学校 最優秀賞
- 第39回全国高等学校総合文化祭滋賀大会  
小倉百人一首かるた部門  
尾形 真由紀 安積黎明高等学校  
読手コンクルールの部 全国優秀賞
- 第63回全国高等学校家庭クラブ研究発表会  
渡部 結依 喜多方東高等学校  
ホームプロジェクトの部 文部科学大臣賞
- 全国簿記電卓競技大会 (簿記部門)  
渡部 美咲 若松商業高等学校  
個人総合競技優勝
- 第39回全国高等学校家庭クラブ研究発表会  
佐藤 美空 若松商業高等学校  
個人総合競技準優勝
- 全国高等学校簿記コンクール  
渡部 花音 若松商業高等学校  
個人競技 優秀賞

- 全国電卓競技大会  
全国高等学校珠算・電卓競技大会  
鈴木 樹里 郡山商業高等学校  
(全経) 個人総合競技 優勝  
(全商) 電卓の部 個人総合競技 優勝
- 全国高等学校珠算・電卓競技大会  
藤井 杏奈 郡山商業高等学校  
(全商) 珠算の部 伝票算競技2等  
鈴木 沙也加 郡山商業高等学校  
(全商) 電卓の部 伝票算競技優勝  
榊 亮太 郡山商業高等学校  
(全商) 電卓の部 伝票算競技2等
- 第30回全国高等学校文芸コンクール  
石井茉莉奈 磐城高等学校  
小説部門 優良賞  
佐々木 萌 磐城高等学校  
短歌部門 優良賞
- (団体)  
●第62回NHK杯全国高等学校放送コンテスト  
磐城高等学校  
ラジオドキュメント部門 優勝
- 第39回全国高等学校総合文化祭  
滋賀大会放送部門  
磐城桜が丘高等学校  
ビデオメッセージ部門 優秀賞  
湯本高等学校  
オーディオビジュアル部門 優秀賞

- 第6回国際ナノ・マイクロアプリケーションコンテスト  
郡山北工業高等学校  
世界大会 Thied Prize 3位  
国内予選 2位
- 第63回全国高等学校決勝弁論大会  
会津高等学校 準優勝 (群馬県議会議長賞)
- 全国高等学校ダンスドリル選手権大会 2015  
郡山商業高等学校 ブロップ部門 第2位
- 全国電卓競技大会  
郡山商業高等学校 (全経) 団体競技 優勝
- 全国高等学校珠算・電卓競技大会  
郡山商業高等学校  
(全商) 団体総合競技 準優勝
- 全日本電卓競技大会  
郡山商業高等学校  
(全日本) 高等学校の部 優勝
- 全国簿記電卓競技大会 (簿記部門)  
若松商業高等学校 (全経) 団体競技 優勝
- 第35回全国高等学校IT簿記選手権大会  
IT部門  
福島商業高等学校 団体3位
- 第 38 回全日本アンサンブルコンテスト  
全国大会  
平商業高等学校 金賞
- 第 63 回全国吹奏楽コンクール  
全国大会  
磐城高等学校 金賞

- 第 68 回全日本合唱コンクール  
全国大会出場団体  
会津高等学校 金賞 (文部科学大臣賞)  
郡山高等学校 金賞 (埼玉県知事賞)
- 第 82 回 NHK 全国学校音楽コンクール  
全国大会出場団体  
郡山高等学校 金賞
- 第 68 回全日本合唱コンクール  
全国大会出場団体  
福島東高等学校 銀賞  
安積黎明高等学校 銅賞
- 日本学校合奏コンクール 2015  
全国大会  
高等学校の部  
郡山商業高等学校 銀賞
- 第 19 回全国高校年間紙面審査賞  
安積高等学校 優良賞  
郡山東高等学校 奨励賞
- 第 30 回全国高等学校文芸コンクール  
磐城高等学校 優秀賞





栄光の記録 国体・高校総体・定時制通信制体育大会

第 70 回国民体育大会成績

|                    |     |  |
|--------------------|-----|--|
| ●水泳競技              |     |  |
| 服部 翼 福島成蹊高等学校      | 3 位 |  |
| A100m 自由形          |     |  |
| 寺田 拓末 湯本高等学校       | 3 位 |  |
| A200m バタフライ        |     |  |
| 国分 香奈 日大東北高等学校     | 6 位 |  |
| A100m 自由形          |     |  |
| A50m 自由形           | 2 位 |  |
| ●陸上競技              |     |  |
| 山下 潤 福島高等学校        | 3 位 |  |
| A100 m             |     |  |
| 遠藤 日向 学法石川高等学校     | 1 位 |  |
| A5000m             |     |  |
| 岩崎 崇文 郡山東高等学校      | 7 位 |  |
| A400m H            |     |  |
| 佐藤 啓太 福島成蹊高等学校     | 5 位 |  |
| A 棒高跳              |     |  |
| 須藤 悠太 郡山東高等学校      | 5 位 |  |
| B 走幅跳              |     |  |
| 佐藤 皓人 日大東北高等学校     | 2 位 |  |
| B 砲丸投              |     |  |
| 田母神一喜 学法石川高等学校     | 1 位 |  |
| 共通 800m            |     |  |
| 木村利紀弥 平工業高等学校      | 7 位 |  |
| 共通走高跳              |     |  |
| 秋山 尚子 相馬東高等学校      | 4 位 |  |
| 共通砲丸投              |     |  |
| ●ボート競技             |     |  |
| 石塚慎之助 田村高等学校       | 8 位 |  |
| シングルスカル            |     |  |
| ●ボクシング競技           |     |  |
| 高橋 一誠 福島明成高等学校     | 5 位 |  |
| ピン級                |     |  |
| ●レスリング競技           |     |  |
| 壽松木勇貴 喜多方桐桜高等学校    | 5 位 |  |
| フリースタイル 120kg 級    |     |  |
| 湯浅 悠人 田島高等学校       | 3 位 |  |
| グレコローマンスタイル 66kg 級 |     |  |

|                   |     |  |
|-------------------|-----|--|
| ●ウェイトリフティング競技     |     |  |
| 後藤 潤也 福島明成高等学校    | 3 位 |  |
| 56kg 級スナッチ        |     |  |
| 56kg 級 C&J        | 2 位 |  |
| 宍戸 大輔 福島工業高等学校    | 2 位 |  |
| 77kg 級スナッチ        |     |  |
| 77kg 級 C&J        | 2 位 |  |
| 青木 智也 田村高等学校      | 3 位 |  |
| 94kg 級スナッチ        |     |  |
| 94kg 級 C&J        | 1 位 |  |
| ●自転車競技            |     |  |
| 渡邊 祐希 学法石川高等学校    | 1 位 |  |
| 個人ロード・レース         |     |  |
| 小玉 和寿 学法石川高等学校    | 7 位 |  |
| ポイント・レース          |     |  |
| ●フェンシング競技         |     |  |
| フルーレ              | 8 位 |  |
| 高橋 恋 川俣高等学校       |     |  |
| 佐藤 真春 川俣高等学校      |     |  |
| 佐藤 新 福島高等学校       |     |  |
| ●ソフトボール競技         |     |  |
| 少年男子              | 5 位 |  |
| ●バドミントン競技         |     |  |
| 少年男子団体            | 1 位 |  |
| 渡辺 勇大 富岡高等学校      |     |  |
| 三橋 健也 富岡高等学校      |     |  |
| 山澤 直貴 富岡高等学校      |     |  |
| 少年女子団体            | 5 位 |  |
| 川上紗恵奈 富岡高等学校      |     |  |
| 仁平 菜月 富岡高等学校      |     |  |
| 高橋明日香 ふたば未来学園高等学校 |     |  |
| ●カヌー競技            |     |  |
| 小久保南海 安達高等学校      | 2 位 |  |
| カヤックシングル 500m     |     |  |
| カヤックシングル 200m     | 3 位 |  |
| ●銃剣道競技            |     |  |
| 少年男子団体            | 3 位 |  |
| 渡邊 峻 福島工業高等学校     |     |  |
| 佐藤 凌 福島南高等学校      |     |  |
| 浅田 忠治 福島高等学校      |     |  |

|                            |     |  |
|----------------------------|-----|--|
| ●なぎなた競技 少年女子演技             |     |  |
| 4 位                        |     |  |
| 佐藤 里咲 会津若松ザベリオ学園高等学校       |     |  |
| 大井川 澤 会津若松ザベリオ学園高等学校       |     |  |
| 目黒 百花 会津若松ザベリオ学園高等学校       |     |  |
| ●冬季大会 スケート競技(平成27年1月～2月開催) |     |  |
| 鈴木 大地 安積高等学校               | 6 位 |  |
| 男子スピード 1000m               |     |  |
| 男子スピード 2000mR              | 6 位 |  |
| 水澤 拓海 安積高等学校               |     |  |
| 鈴木 大地 安積高等学校               |     |  |
| 増子 建紀 郡山商業高等学校             |     |  |
| 古川 徹 郡山商業高等学校              |     |  |
| ●冬季大会 スキー競技(平成27年1月～2月開催)  |     |  |
| クロスカントリーリレー                | 8 位 |  |
| 渡部 颯 会津工業高等学校              |     |  |
| 鈴木 健大 猪苗代高等学校              |     |  |
| 星 水月 南会津高等学校               |     |  |
| 鈴木 蓮 会津工業高等学校              |     |  |
| 平成 27 年度全国高等学校総合体育大会       |     |  |
| ●陸上競技                      |     |  |
| 田母神一喜 学法石川高等学校             | 1 位 |  |
| 男子 1500m                   |     |  |
| 男子 800m                    | 3 位 |  |
| 山下 潤 福島高等学校                |     |  |
| 男子 200m                    | 2 位 |  |
| 男子 100m                    | 4 位 |  |
| 遠藤 日向 学法石川高等学校             |     |  |
| 男子 5000m                   | 3 位 |  |
| 五十嵐 礼 会津学鳳高等学校             |     |  |
| 男子 110mH                   | 4 位 |  |
| 斉藤 健介 原町高等学校               |     |  |
| 男子やり投げ                     | 8 位 |  |
| ●ソフトテニス                    |     |  |
| 中村 和樹 学法石川高等学校             | 3 位 |  |
| 男子 個人                      |     |  |

|                      |     |  |
|----------------------|-----|--|
| ●水泳(競泳)              |     |  |
| 寺田 拓末 湯本高等学校         | 3 位 |  |
| 男子 100m バタフライ        |     |  |
| 男子 200m バタフライ        | 3 位 |  |
| 国分 香奈 日大東北高等学校       | 6 位 |  |
| 女子 50m 自由形           |     |  |
| ●バドミントン              |     |  |
| 富岡・ふたば未来学園高等学校       | 3 位 |  |
| 男子団体                 |     |  |
| 富岡・ふたば未来学園高等学校       | 2 位 |  |
| 女子団体                 |     |  |
| 渡辺 勇大 富岡・ふたば未来学園高等学校 | 1 位 |  |
| 男子シングルス              |     |  |
| 三橋 健也 富岡・ふたば未来学園高等学校 | 3 位 |  |
| 男子シングルス              |     |  |
| 渡辺 勇大・三橋健也           |     |  |
| 富岡・ふたば未来学園高等学校       | 1 位 |  |
| 男子ダブルス               |     |  |
| 川上紗恵奈 富岡・ふたば未来学園高等学校 | 5 位 |  |
| 女子シングルス              |     |  |
| ●弓道                  |     |  |
| 寺田 茂樹 白河高等学校         | 7 位 |  |
| 個人                   |     |  |
| ●柔道                  |     |  |
| 相浦 佳斗 田村高等学校         | 5 位 |  |
| 男子 73kg 級            |     |  |
| ●自転車競技               |     |  |
| 小玉 和寿 学法石川高等学校       | 1 位 |  |
| ポイントレース              |     |  |
| 渡邊 歩 学法石川高等学校        | 1 位 |  |
| ロードレース               |     |  |
| 鈴木 涼介 白河実業高等学校       | 3 位 |  |
| 4km 速度競走             |     |  |
| 白河実業高等学校             | 4 位 |  |
| 4km チーム・パーシュート       |     |  |
| 学法石川高等学校             | 5 位 |  |
| 4km チーム・パーシュート       |     |  |
| トラック競技総合             |     |  |

|                          |     |  |
|--------------------------|-----|--|
| ロード競技総合                  |     |  |
| 学校対抗総合                   | 1 位 |  |
| ●ウェイトリフティング              |     |  |
| 青木 智也 田村高等学校             | 2 位 |  |
| 94kg 級スナッチ               |     |  |
| 94kg 級クリーン&ジャーク          | 2 位 |  |
| 94kg 級トータル               | 1 位 |  |
| 宍戸 大輔 福島工業高等学校           | 6 位 |  |
| 77kg 級スナッチ               |     |  |
| 77kg 級クリーン&ジャーク          | 2 位 |  |
| 77kg 級トータル               | 2 位 |  |
| 後藤 潤也 福島明成高等学校           | 6 位 |  |
| 56kg 級スナッチ               |     |  |
| 56kg 級クリーン&ジャーク          | 3 位 |  |
| 56kg 級トータル               | 4 位 |  |
| 遠藤 敦也 田村高等学校             | 8 位 |  |
| 53kg 級スナッチ               |     |  |
| 53kg 級クリーン&ジャーク          | 8 位 |  |
| 53kg 級トータル               | 7 位 |  |
| 柴野 誠人 福島工業高等学校           | 6 位 |  |
| 62kg 級クリーン&ジャーク          |     |  |
| ●フェンシング                  |     |  |
| 佐藤 真春 川俣高等学校             | 3 位 |  |
| 男子サーブル                   |     |  |
| 川俣高等学校 女子学校対抗            | 5 位 |  |
| ●なぎなた                    |     |  |
| 団体 会津若松ザベリオ学園高等学校        | 2 位 |  |
| ●カヌー                     |     |  |
| 小久保南海 安達高等学校             | 3 位 |  |
| 女子スプリント K1 (500m)        |     |  |
| 女子スプリント K1 (200m)        | 6 位 |  |
| 平成 27 年度全国高等学校定時制通信制体育大会 |     |  |
| ●剣道                      |     |  |
| 金成亨 東日本昌平高等学校            | 3 位 |  |
| 男子個人                     |     |  |

ふたば未来学園高校の未来創造型教育

福島から

「変革者」を育てる

校長 丹野 純一

福島県は、震災と原発事故という、人類が経験したことのなような災害に見舞われ、いまなお、ふるさとを離れた地で、多くの県民が避難生活を送っています。避難先を転々とし、慣れない土地や学校での生活で様々な困難に遭い、未だにそれに向き合っている生徒も少なくありません。

一方で、少子・高齢化、過疎化、産業空洞化などが全国的に深刻化する中、震災と原発事故はこれらの課題を先鋭化させ、双葉郡をはじめとする福島県は、いわば課題先進地域となっています。

このような中、私たちは、これまでの価値観、社会のあり方を根本から見直し、持続可能な循環型社会の実現、自立した新たなコミュニティ・まちづくり、再生可能エネルギー社会の実現など、新しい生き方、新しい社会の建設を目指し、変革を起こしていくことが求められています。

それは、震災と原子力災害を経験した私たちに、未来から課せられた使命、ミッションということができます。

このことから、地域や世界を舞台にして、自らを変革し、社会を変革していく「変革者」を育成することを教育目標とし、変革のための理念である「自立」「協働」「創造」を校訓として、「未来創造型教育」を力強く展開していくこととしました。

教育方針として、生徒が主体的に動く学校、失敗を恐れず困難な課題に挑戦する生徒を支え応援する学校、現実社会の中で学ぶ学校、地域・コミュニティや世界と共に学ぶ学校、夢を開く窓がたくさんある学校としていくこととしました。

入学生 現在の様子

広野の本校舎に二五五名、静岡県の三島長陵校舎に十八名、猪苗代校舎に九名、計一五二名の生徒が入学しました。うち、三島長陵校舎は JFA アカデミーのサッカー、猪苗代校舎は県のアスリートプログラムのバドミントンの生徒であり、本校舎を含め、富岡高校が中心となった双葉地区教育構想を引き継ぐものです。

本校舎の生徒のうち、約八割が震災時双葉郡に居住していた生徒であり、他は、いわき市をはじめ、県内各地から入学してきた生徒です。約半数は寮に入り、他は電車や自転車で通学しています。

全国から注目される中、先進の教育を展開していますが、生徒、教職員ともに手探りしながらそれぞれの目標を定め、授業、部活動などで落ち着いた学校生活を送るようになってきています。

特に、本校舎では、避難先を転々とし、現在も厳しい環境にある生徒が多いわけですが、それぞれが困難を乗り越えて新しい一歩を踏み出しています。

①双葉郡の中学校などと連携し、地域と世界をつなぐ探究型学習、「ふるさと創造学」を展開しています。ふるさとの未来を考えることを通して、全国・世界の地域の課題を解決する力を育てています。

生徒達はグループに分かれ、町役場、商店、東京電力等を訪ね、地域の現状を調査し、復興に向けて地域が抱えている課題を演劇で表現しました。

このように、困難な課題が山積する現実社会での課題解決型学習、アクティブ・ラーニング

を中心として、新しいタイプの授業を展開しています。



地域の課題を劇に

②文部科学省指定のスーパー・グローバル・ハイスクールとして、一年次は地域の課題を探り、演劇など様々な形でそれを表現し、二年次にかけては五研究班に分かれてドイツ、タイ、アメリカなど国内外で学び、三年次は地域再生にかかる個人研究を進め、国内外で研究成果を提言していきます。

③アクティブ・ラーニングを積極的に行っています。困難な課題が山積する現実社会での課題解決型学習の他、各教科等においてもディスカッションやプレゼンテーションの機会を設けるなど、様々な形で思考をアクティブ化する学習を展開しています。

④震災の教訓を生かし、循環型社会の創造を目指し、地震・津波・原子力災害等からの防災について探究する「防災教育」や、地球温暖化やエネルギー問題への理解を深める「環境教育」を行っています。

⑤生徒全員がタブレット端末を持って授業を受けたら、国内外の高校生と交流するなど、ICTを活用した教育活動を積極的に展開しています。

⑥徹底した習熟度別指導、「反転学習」や「共同学習」など様々な方法で生徒の学力向上を図っています。後期からは、学力差の大きな集団によりきめ細かく対応するため、習熟度別に5クラスに分け、タブレットと受験サプリも活用しながら、火曜日放課後の英数国の課外授業も始めました。また、英数については朝の課外授業も実施しています。さらに、個に応じたきめ細やかな指導を行うため、定期考査前から十日間にわたって十名以上の教職を目指す福島大生が寄宿舎に泊まり込み、生徒の学習を支援しました。

⑦大学進学を目指す「アカデミック系列」、職業人を目指す「スペシャリスト系列」、世界・全国で勝負する「トップアスリート系列」の三つの系列ごとに、多種多様な選択科目を設けた総合学科であり、生徒の進路希望に応じたカリキュラムとしています。

⑧以上を進めるに当たっては、大学、地域、企業、NPO、OECDなどの国際機関などと連携し、「ふたばの教育復興応援団」などの支援も得ています。このうち「応援団」については、教員との「協同責任編集」授業をカリキュラムに位置づけ

ながら展開しています。平田オリザさんによる演劇制作の授業に続き、八月には山崎直子さん、箭内道彦さん、九月には林修さん、十月には応援団四名をお迎えして四つのゼミ(宮田亮平東京芸術大学学長の「アートの力」、為末さんの「スポーツの力」、箭内道彦さんの「祭りの力」、平田オリザさんの「ドラマの力」)を開講し、生徒たちが地域の課題を乗り越えるプロジェクトを企画実践し、十一月の学園祭で地域に向けて発表し、大成功を収めました。

そのほかに、三島長陵校舎、猪苗代校舎も含めた全校生の宿泊学習において小泉進次郎議員を迎えて意見交換を行いました。

⑨平成二十八年度末に休校となる双葉郡内のサテライト高校5校との交流を実施しています。生徒の発案で、十月に行われた双葉郡八町村の祭り「ふたばワールド in ならは二〇一五」で合同ブースを出展し、地域に各校の取り組みや復興への想いをアピールしました。

一期生として、何もかもが初めてであり、大変なことも多い学校生活ですが、逆に、自分たちの力で未来を切り拓く喜びと誇りに胸に、生徒たちは、色々なことにチャレンジしています。私たち教職員も、まさに「変わろう」としている生徒たちの姿こそが希望であり、この国の未来であると、日々思いを新たにしつつ、失敗を恐れず挑戦し続けていきたいと思っています。

今後、本校と福島県内の高等学校との「協働」の輪を少しずつ広げていきたいと思っています。よろしく願っています。



為末さんの特別授業

⑩双葉郡内の中学校などと連携し、地域と世界をつなぐ探究型学習、「ふるさと創造学」を展開しています。ふるさとの未来を考えることを通して、全国・世界の地域の課題を解決する力を育てています。

生徒達はグループに分かれ、町役場、商店、東京電力等を訪ね、地域の現状を調査し、復興に向けて地域が抱えている課題を演劇で表現しました。

このように、困難な課題が山積する現実社会での課題解決型学習、アクティブ・ラーニング

を中心として、新しいタイプの授業を展開しています。